

A close-up photograph of a forest floor covered in pine needles, twigs, and small green plants. The text is overlaid on the image.

子どもの松原再生プロジェクト その後の取り組み

東京都大島町の事例

飯野 桂子





伊豆大島の概要

標高	764m
面積	91.06km ²
海岸線長	52km
人口	8,135人

- 1952年 さくら株(樹齡800年以上)
国指定特別天然記念物
(指定)
- 1964年7月 富士箱根伊豆国立公園
(指定)
- 1983年 マツノザイセンチュウ病
昭和58年 初期発生(南部・北部地区)
- 1986年11月 三原山噴火
昭和61年 島民一か月の島外避難
- 1989年 マツノザイセンチュウ病
平成元年 島内全域が激害林分



子どもの松原再生プロジェクトInサンセットパームライン 大島町立つばき小・さくら小卒業記念植樹

* 目的

卒業記念として、昔のような松林を取り戻すために、小学校時代 遠足や海水浴で楽しい思い出が有るサンセットパームラインに植樹を行う。

* 平成21年2月3日 午後から植樹を行う。

* 参加者

つばき小・さくら小6年生41名
小祿常務・増木教育長・各校長・保護者等合わせて80名

* 植樹本数

抵抗性マツ苗500本

植樹の説明



松原の重要性をクイズ形式に分かりやすく説明する増木教育長



子どもの松原の夢を子どもたちに伝える小禄常務



マツ苗の植え方を説明する松保護士

植栽

植栽場所にてマツ苗を配り植栽



植え方の説明をしている時には、つまらなさそうな顔をしていた子ども達は苗を手に笑顔がこぼれる。



あ！！という間に500本植栽終了！



植栽後の取り組み



翌年(平成22年) 教育文化課から資材提供を頂き、防風ネットの施工を行った。同時に手入を行い又、苗木の活力を高めるために、共生菌を投与した。



潮害・防風対策



植樹年(平成21年)春に爆弾低気圧通過により潮をかぶり潮害を受けた。

植樹後の取り組み



菌根菌共生根の調査方法の
実習

平成22年8月に行った
東京農業大学短期大
学部学生のインターン
シップ中に テレビ東
京「ワールドビジネス
サテライト」の
取材を 野増 大宮の
松原で受ける。



子どもの松原の下草刈り実習

潮害・強風の防護ため、松苗
根元のみ草刈りを実施

平成24年6月現在



平成24年6月現在、潮害等の被害が少ない場所は2mほどの成長をしたが、影響を大きく受ける場所は常風方向側の枯死枝が多く見られ、伸長成長が抑制されている。



新たな脅威

害虫 ウスイロサルハムシ(スギハムシ)

マツ材線虫病による枯損は近年島内全域で1～2本程度で推移している。だが、島内北西部地域に発生をした、ウスイロサルハムシの食害による松苗枯損が目立つ様になった。また、ウスイロサルハムシに対する登録農薬は無く、また、2年に1回発生し、長期にわたり松苗の枯損の広がりが懸念されている。



和名: ウスイロサルハムシ(スギハムシ)
学名: *Basilepta pallidula* Baly



後食痕



松林管理

南部地域の小中学生が12年前に植栽した松林を、大島町産業課の声掛けにより、毎年地域ボランティアによる草刈りが行われている。

その他地域においても、同様に管理されている。



残る松原(大宮の松原)



松大径木移植が行なわれた大宮の松原

大宮の子ども達も中央分離帯ですくすく元気に育ち、大島の子ども達が元気に育つ様、松と共に人間生活を次世代につなげられる啓発活動を大島町と共に続けます。

ご静聴有難うございました。

